

東京言語研究所 公開講座

芸術を生みだす脳

＜講師＞ 河村 満氏

(奥沢病院名誉院長／臨床神経心理学)

＜日時＞2019年2月23日(土) 14:00～17:00

＜会場＞東京言語研究所

(新宿区大久保 1-3-21 新宿TXビル2階 ラボ教育センター内)

※新しい教室に移転しましたのでご注意ください

＜参加費＞一般 2,000 円

学生, ラボ・チューター 1,500 円

*2018年度理論言語学講座受講生は1000円

※参加費は当日現金でお支払下さい。

定員
50名

＜申込み＞「ホームページ申込みフォーム」、もしくは「FAX(HPよりダウンロード)」で

お申し込みください。1月21日より申込開始

- ①公開講座受講希望 ②氏名 ③フリガナ ④性別 ⑤住所 ⑥電話番号
- ⑦Eメールアドレス ⑧区分(2018年度理論言語学講座受講生・一般・学生)
- ⑨所属(大学生・大学院生・教員・会社員・その他)

(上記情報は東京言語研究所事業以外には一切使用いたしません。)

講師
略
歴

横浜市立大学医学部卒業。千葉大学医学部神経内科講師、昭和大学医学部神経内科教授、昭和大学病院附属東病院院長を経て、現在、昭和大学医学部客員教授、奥沢病院名誉院長。専門分野は臨床神経心理学(失語・失行・失認などの病態の研究)、臨床神経症候学。現在はBrain and Nerve誌(医学書院)の編集主幹を務めている。音楽の論考やCDの監修なども手がける。

問合せ先

公益財団法人 ラボ国際交流センター 東京言語研究所

〒169-0072 新宿区大久保 1-3-21 新宿TXビル2階

TEL:03-6233-0631 FAX:03-6233-0633

ホームページ:<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

講演要旨
は裏面へ

【講義要旨】

認知症や頭部外傷患者さんで症状の進行と共に言語機能が低下し、それと共に描画機能や手順・道順などがむしろ向上することがあります。これを獲得性サバン症候群と呼びます。これらは、ヒトの脳では言語機能と描画・手順・道順機能とが“おしくらまんじゅう”していることを示唆し、これは芸術を生み出す脳の仕組みとも関連します。

サバン症候群は元々自閉症児で知られ、向上する機能の内容は多岐にわたっています。例えば、記憶、描画、音楽、カレンダー計算（「何年、何月、何日は何曜日？」という質問に関する計算のこと）、知覚、時間認知などが知られています。少女ナディア、ダスティン・ホフマン主演の映画レインマンのモデルになったキム・ピークなどが典型例として有名です。自閉症児では、言語機能が獲得されるとこれらの能力は低下します。

獲得性サバン症例でも、自閉症でみられる様々な機能の亢進はそのままみられます。米国のオランダ・セレルや私たちが診た患者さんは頭部外傷例でしたが、頭部外傷後にカレンダー計算能力や絵画能力を獲得しました。とても不思議なことですが、際立った機能が生れる背景にはこのような、ヒトの脳の病的な機能低下が必要な場合があるのです。

芸術行為の基底にある創造性は、「でこぼこの脳が、おしくらまんじゅうして」生み出されているのかもしれませんが。